

# 鹿野遊

KANASUBI

## 椎葉村の玄関口



### 地区の概要

鹿野遊（かなすび）地区は、野老ヶ八重・久津の元・椎原・大久保・十根川・内の八重・鹿野遊の7つの集落で構成されており、人口は約200人です。熊本県や諸塚村からの道路が整備されており、村の玄関口とも呼べる立地です。平家追討のために椎葉山を訪れた大八郎が初めて陣小屋を構えたと伝えられており、平家落人伝説の時代から今も変わらず椎葉村の玄関口としての役割を果たしています。



### 地区の未来像

十根川の大杉のように  
でかく、長く、まっすぐに。



### 作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「鹿野遊みらい会議」を2回行いました。その後、役員会やふれ愛の会、八村会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。



## プロジェクト

# 01 鹿野遊マップを活用するプロジェクト

### 概要

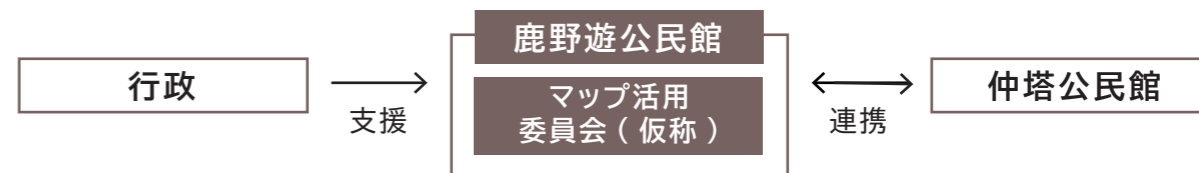
2021年に、鹿野遊地区の隠れた観光スポットをPRするための鹿野遊マップを、ふれ愛の会が中心となって作成した。鹿野遊マップを活用してより鹿野遊地区に観光客が訪れるような仕掛け作りをしていく。

具体的には、公民館内に新たにマップ活用委員会（仮称）を設置し、委員会メンバーが中心となってマップを活用した取り組みを検討していく。たとえば、マップと連動した看板の設置等の取り組みを検討している。

### 目的

鹿野遊地区の良いところをもっと知ってもらいたい。

### 実施体制



鹿野遊公民館内にマップ活用委員会（仮称）を設置し、委員会メンバーが主体となって全体を推進する。

## メモ



# 02 十根川フットパスを体験型にするプロジェクト

## 概要

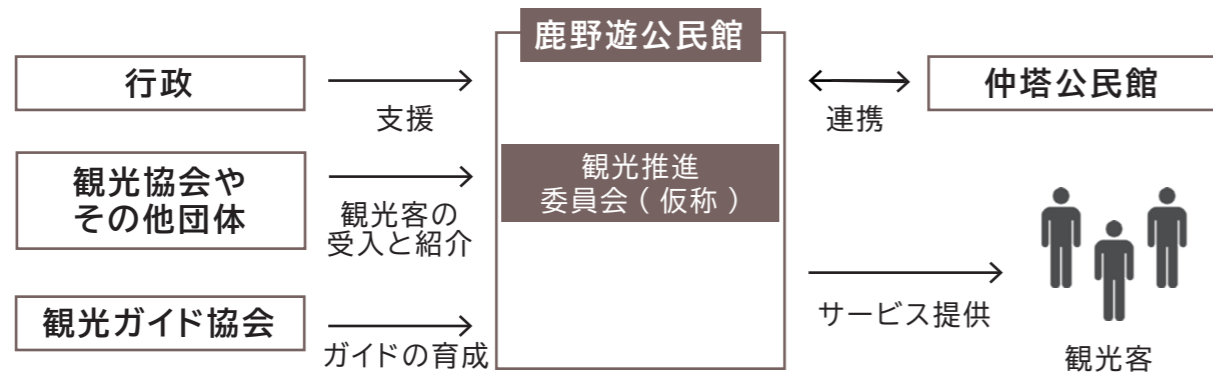
既にフットパスコースが十根川集落にあり、集落としても観光客が歩いている状態に慣れてきた。今回、公民館内に新たに設置する観光推進委員会（仮称）が主体となってフットパスで訪れた観光客に対して四季折々の体験型観光サービスを提供できるような体制をつくっていく。長期的には鹿野遊地区の他集落においても同様に展開していく。

2022年に公民館内に観光推進委員会（仮称）を設置し、地区住民からメンバーを募集し、委員会メンバーで他地域のフットパスを視察する。  
2023年に村民向けモニターツアーを行う。また、村外向けに提供できる体制を整え、村外向けに提供する。  
2024年以降は参加者アンケートから改善をし続ける。また、地区内の他集落でもできるように委員会を中心に検討する。

## 目的

- (1) 観光客に、地域の災害からの復興と地区固有の歴史や文化を体験を通して感じてもらう。
- (2) 稲刈りや椎茸収穫など、季節労働を体験として手伝ってもらうことで自分たちの負担を減らす。
- (3) 地区内で観光収入が得られるようにする。

## 実施体制



鹿野遊公民館内に観光推進委員会（仮称）を設置し、委員会メンバーが主体となって全体を推進する。サービス提供時には地区住民の有志も参加する。

## メモ

# 地域住民の声



館長の想い  
椎山 操  
(しいやま みさお)

鹿野遊地区には、十根川伝建地区や八村杉、大久保のヒノキなど、この地ならではのものがたくさんありますが、住民にとっては「当たり前にあるもの」でもあります。そんな地元の魅力を自分たち自身が再認識して、さらに多くの人に訪れてもらえるような工夫をしていきたいです。

今回のプロジェクトになった鹿野遊マップの活用や、体験型十根川フットパスの仕掛けづくりを通して地区の動きに弾みをつけて、さらなる取り組みにもつなげて行きたいと考えています。そういった中で、地区を盛り上げるための個々の意識向上をめざしながら、将来の鹿野遊地区を担う人づくりにつながる場を大切にしていきたいです。

また、ことあるごとに女性が入って意見を言える場を増やしていきたいとも考えています。「本当はこういう部分が必要だ」という生の声は、子育て世代でも介護でも、女性の意見が必要不可欠だと思うからです。鹿野遊は穏やかで大人しい性格の人が多いですが、そんな私たちだからこそ本音で語り、女性も一緒になって意見を出し合える雰囲気を皆で作ってほしいと思っています。



(作成中の鹿野遊マップ)